

ざっくり
黙示録

7

黙示録10～12章
大患難時代・中間Ⅰ

二人の証人

【今日のアウトライン】

0. ふりかえり

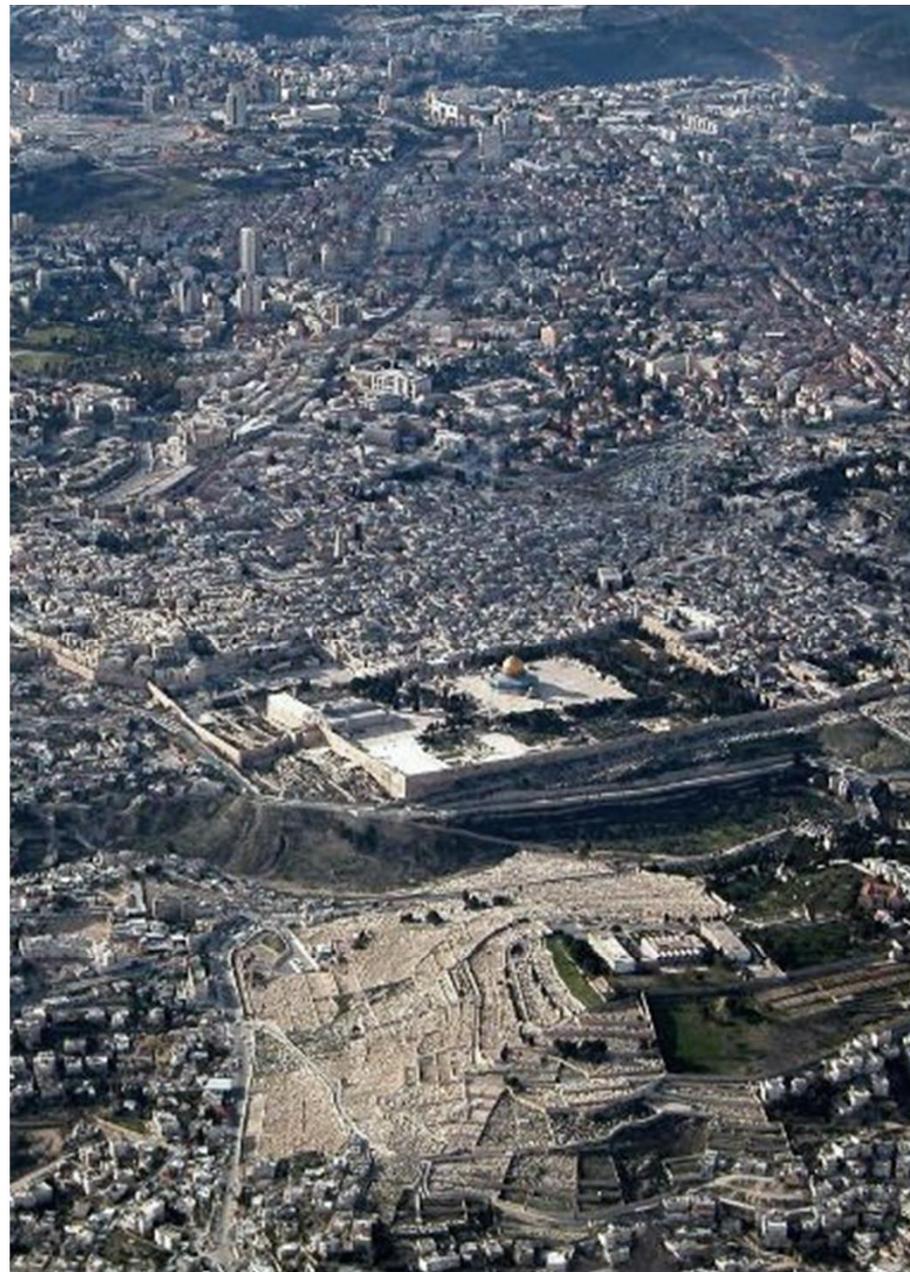
I. 小さな巻物 10章

II. 二人の証人 11章

III. 大患難時代のイスラエル 12章

IV. まとめと適用

今この恵みの時代に、
主の恵みを味わい尽くそう



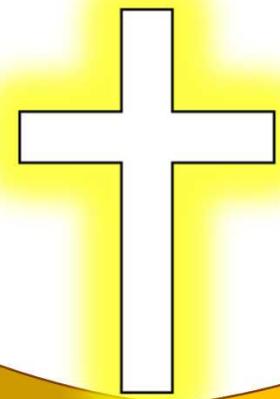
0. 終末のおさらい



【聖書の世界観には、初めがあり、終わりがある】

天地創造
人類の墮罪

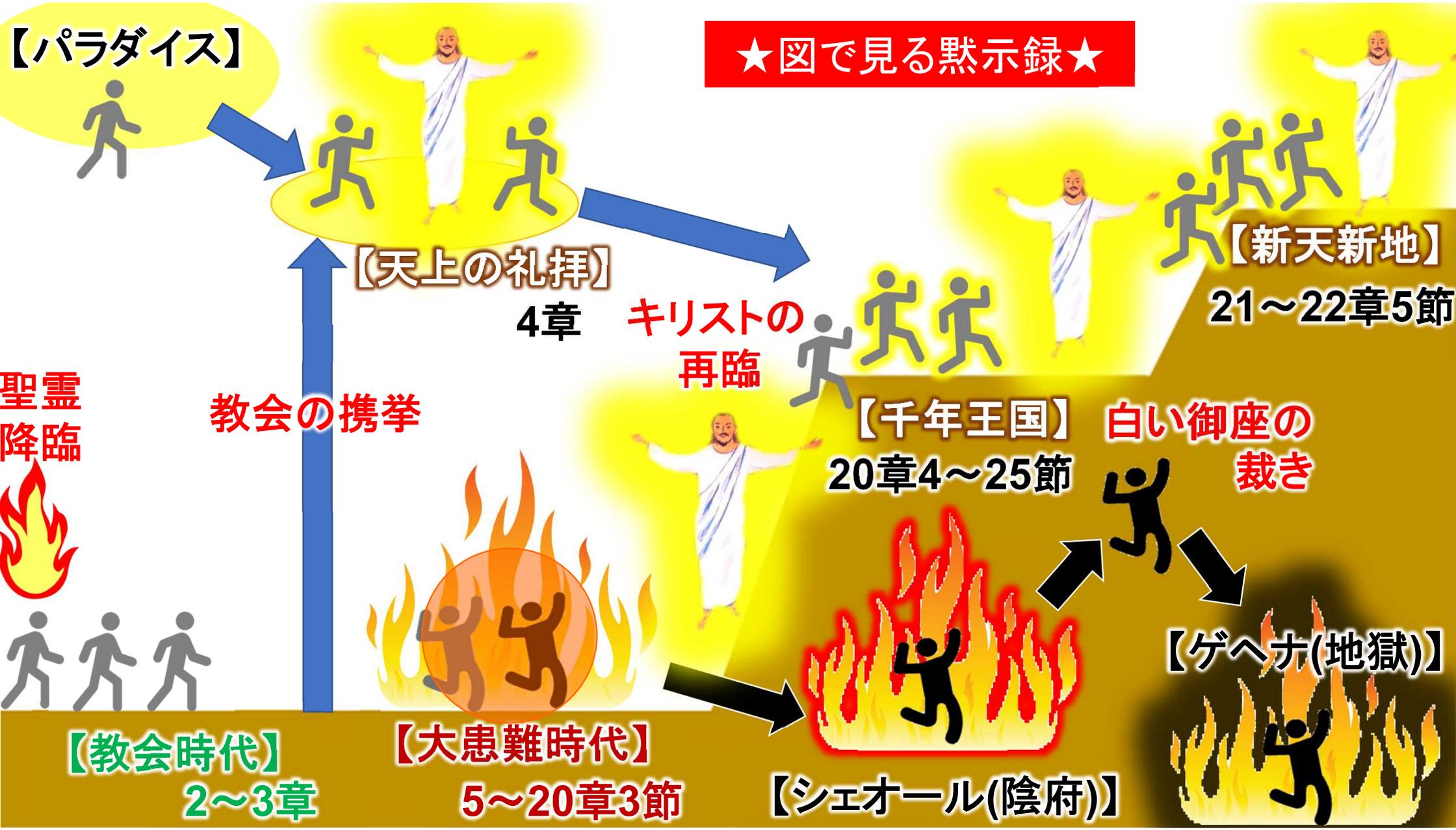
キリストの
十字架の
死と復活



今の時代(教会時代)

～ゴールは、世界の回復。理想世界の実現～

★図で見る黙示録★



黙示録アウトライン

序文	栄光のキリストとの遭遇	1章
教会時代(現在)	教会への励ましと警告	2～3章
天上の礼拝	教会の携挙～天上の礼拝	4～5章
大艱難時代	大艱難時代に起こること キリストの再臨	6章～20章3節
千年王国	千年王国の様子 白い御座の裁き(最終的裁き)	20章4節～25節
新天新地	地に降る天のエルサレム 永遠の神の王国	21章1節～22章5節
結論	イエスの宣言と招き 警告と約束	22章6～21節

【大患難時代とは？】

- 今の「恵みの時代」の最後の7年間。
- 聖書預言では、「**主の日**」とも呼ばれる。
- かつてない大災厄が地上を襲う。

【大患難時代の目的】

- ① 地上から悪と悪人を取り除くため。
- ② 全世界規模の霊的覚醒を起こすため。
- ③ イスラエルを民族的回心に導くため。

【大艱難時代の始まり】

- 教会の携挙の後。（その何年後かは分からない）
- **反キリスト**がイスラエルと7年間の契約を結ぶ時。
→ 世界の支配者となる、サタンの化身。



【大患難時代に下る裁き】

三段階に分けて、神の裁きが下る

★前半の3年半★

①七つの封印の裁き

②七つのラツパの裁き

★中間期

★後半の3年半★

③七つの鉢の裁き



【1. 封印の裁き】



三つの災い



【2. ラツパの裁き】



【3. 鉢の裁き】



天上の礼拝

世界宣教・大リバイバル

14万4千人のユダヤ人 2人の証人

封印の裁き

ラツパの裁き

鉢の裁き

・教会の携挙

- ・イスラエルの契約
- ・反キリストと
- ・反キリストの世界征服
- ・世界大戦・大飢饉
- ・聖徒の迫害
- ・自然界の異変

- ・悪霊による死
- ・悪霊による苦痛
- ・1 / 3の宇宙の滅び
- ・1 / 3の川・泉の滅び
- ・1 / 3の海の滅び
- ・1 / 3の土地の滅び

- ・反キリストが豹変し、
神殿を汚す
- ・二人の証人の死と復活
- ・反キリストの死と復活
- ・ボツラへ逃れる

大迫害・多数の殉教者

- ・イスラエルへの大迫害

- ・悪性の腫れ物
- ・血に染まる海

- ・血に染まる川と泉
- ・太陽に焦がされる
- ・暗黒がバビロンを包む
- ・干上がるユーフラテス

- ・招集される悪の軍隊

・ハルマゲドン

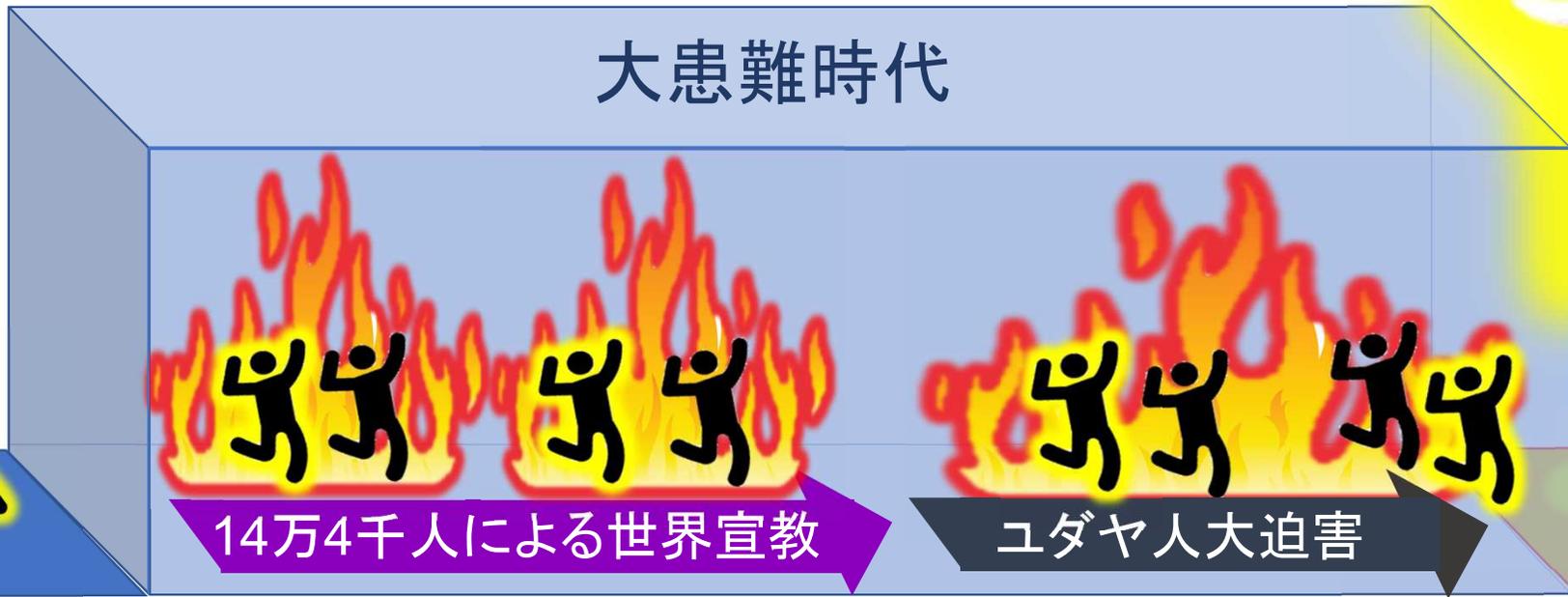
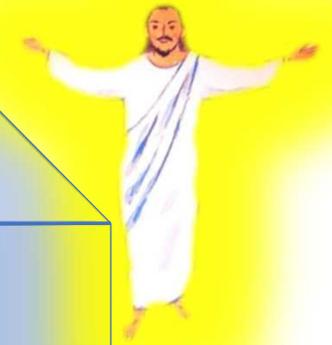
・メシアの再臨

大患難時代

大患難時代	前半(3年半)	7つの封印の裁き	6:1~17
		144,000人のユダヤ人と大宣教	7:1~17
		7つのラツパの裁き	8:1~9:21
	中間期	第7のラツパの預言・小さな巻物	10:1~11
		第三神殿・二人の証人の死と復活	11:1~14
		第7のラツパが吹かれる	11:15~19
		大患難時代のイスラエル 海からの獣・地からの獣 神の勝利の7つの宣言	12:1~18 13:1~18 14:1~20
	後半(3年半)	天に現れるしるし	15:1~10
		7つの鉢の裁き	16:1~21
		大バビロン	17:1~18:24
メシア再臨	千年王国	再臨	19:1~20:3

天上の礼拝

大患難時代



14万4千人による世界宣教

ユダヤ人大迫害

御国の時代

教会時代

携拳

封印の
裁き

ラツパの
裁き

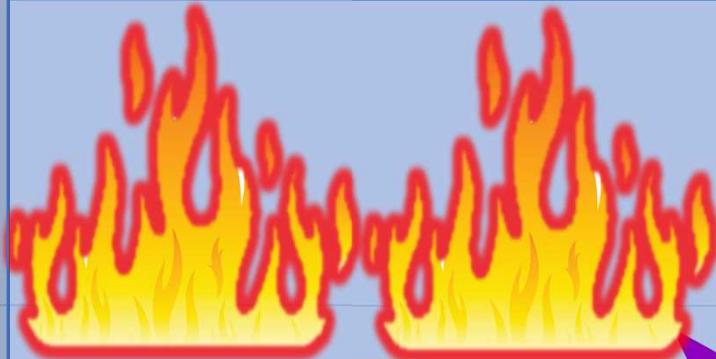
鉢の裁き

メシア再臨
イスラエルの
民族的回心

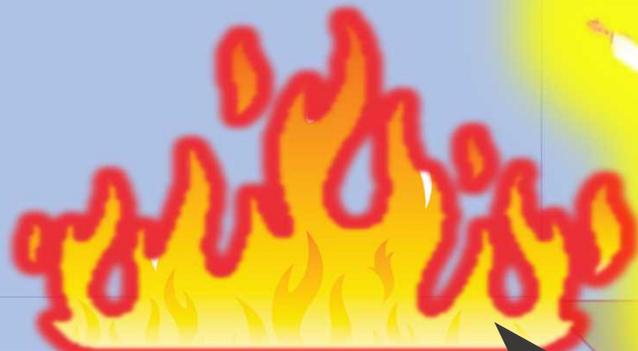
天上の礼拝



大患難時代



14万4千人による世界宣教



ユダヤ人大迫害



御日の時代



教会時代

携拳

封印の
裁き

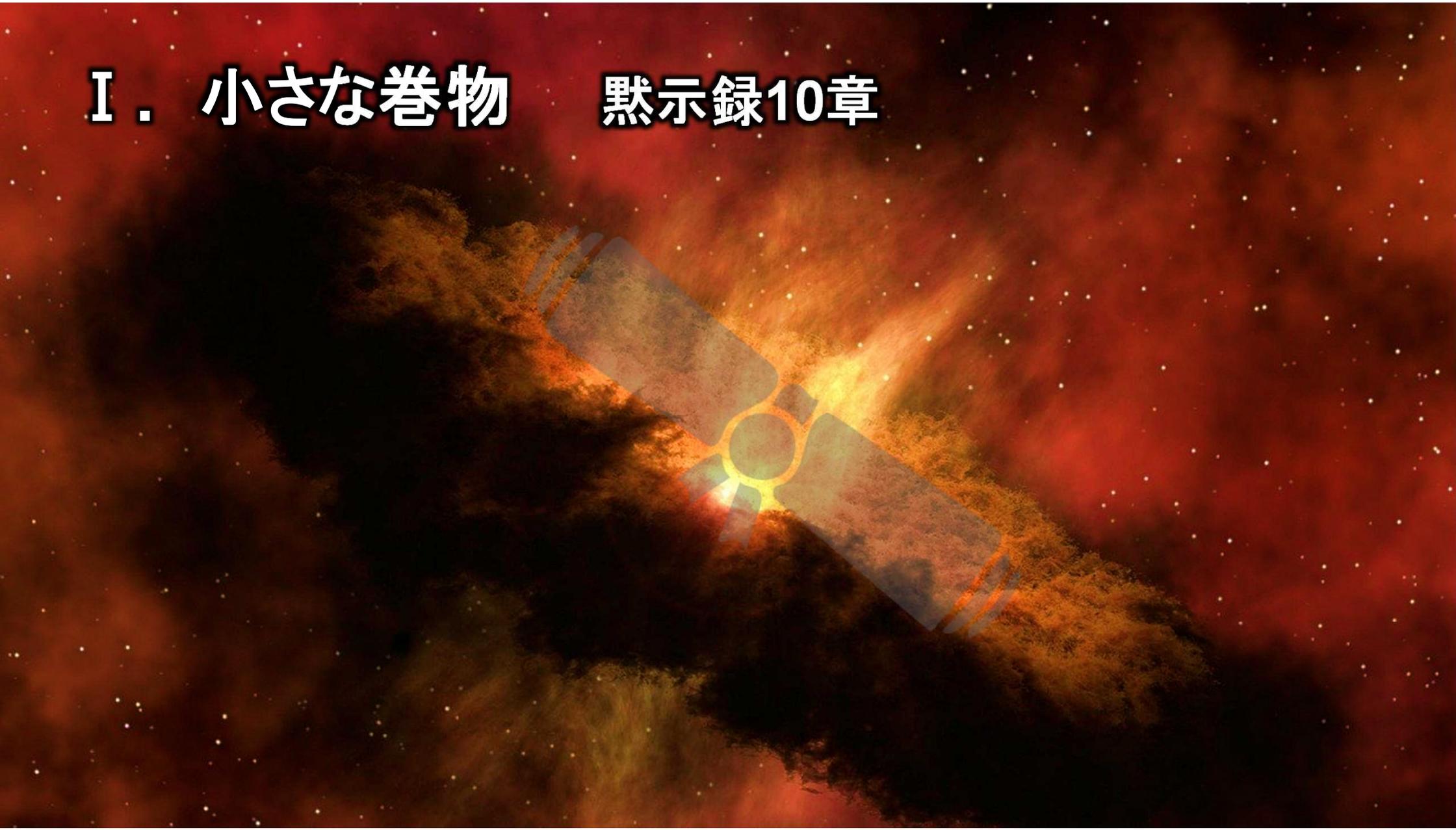
ラッパの
裁き

鉢の裁き

メシア再臨
イスラエルの
民族的回心

I. 小さな巻物

黙示録10章



【御使いと小さな巻物】 黙10:1～3

また私は、もう一人の強い御使い*が、雲に包まれて天から下って来るのを見た。その頭上には虹があり、その顔は太陽のよう、その足は火の柱のようで、手には開かれた小さな巻物*を持っていた。御使いは右足を海の上、左足を地の上に置いて、獅子が吼えるように大声で叫んだ。彼が叫んだとき、七つの雷*がそれぞれの声を発した。

* これまでの天使と同格の、別の一人の天使。

➡キリストではない。ヨハネも誰も礼拝していない!!

* 七つの封印の巻物とは別。

* 天使の背後から響く、神の裁きの声

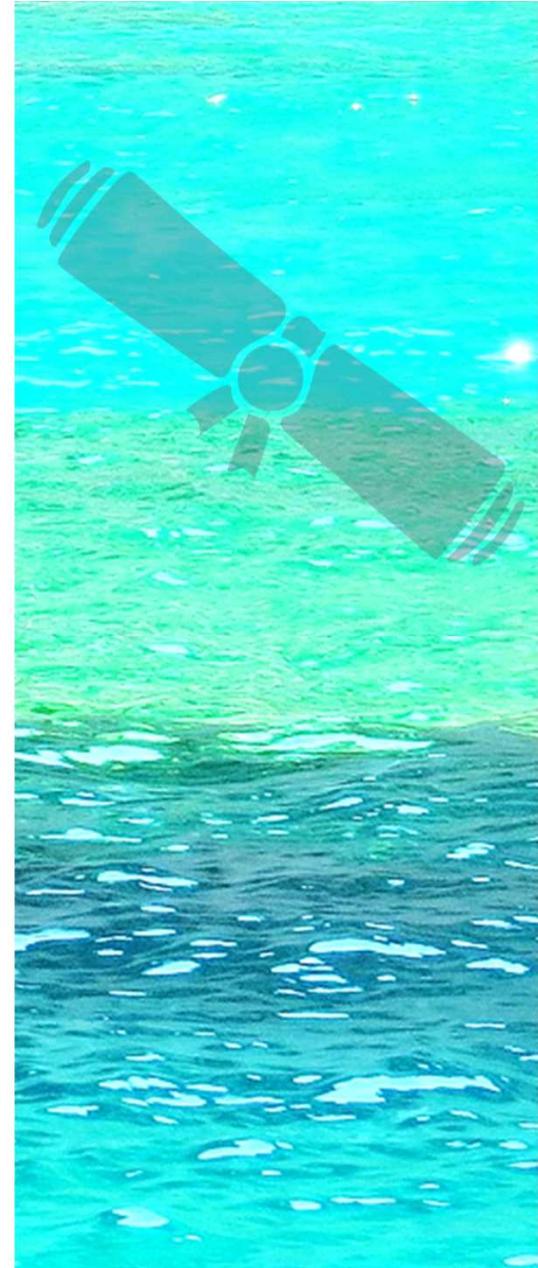


【封じられた裁きの内容】 黙10:4～7

七つの雷が語ったとき、私は書き留めようとした。すると、天からの声がこう言うのを聞いた。「七つの雷が語ったことは封じておけ。それを書き記すな。*」

それから、海の上と地の上に立っているのを私が見たあの御使いは、右手を天に上げ、天とそこにあるもの、地とそこにあるもの、海とそこにあるものを造って、世々限りなく生きておられる方にかけて誓った。「もはや時は残されておらず、第七の御使いが吹こうとしているラツパの音が響くその日に、神の奥義は、神がご自分のしもべである預言者たちに告げたとおりに実現する。」

*** 大患難のすべてが明らかにされているのではない。**



【苦く、甘い、巻物】 黙10:8~11

それから、前に天から聞こえた声が、再び私に語りかけた。「行って、海の上と地の上に立っている御使いの手にある、開かれた巻物を受け取りなさい。」

私はその御使いのところに行き、「私にその小さな巻物を下さい」と言った。すると彼は言った。「それを取って食べてしまいなさい。それはあなたの腹には苦いが、あなたの口には蜜のように甘い。」

そこで、私はその小さな巻物を御使いの手から受け取って食べた。口には蜜のように甘かったが、それを食べてしまうと、私の腹は苦くなった。すると私はこう告げられた。「あなたはもう一度、多くの民族、国民、言語、王たちについて預言しなければならない。」



神の裁きの両面

信者には祝福

不信者には呪い

Ⅱ. 二人の証人

黙示録11章



【測られる裁き】 黙11:1～3

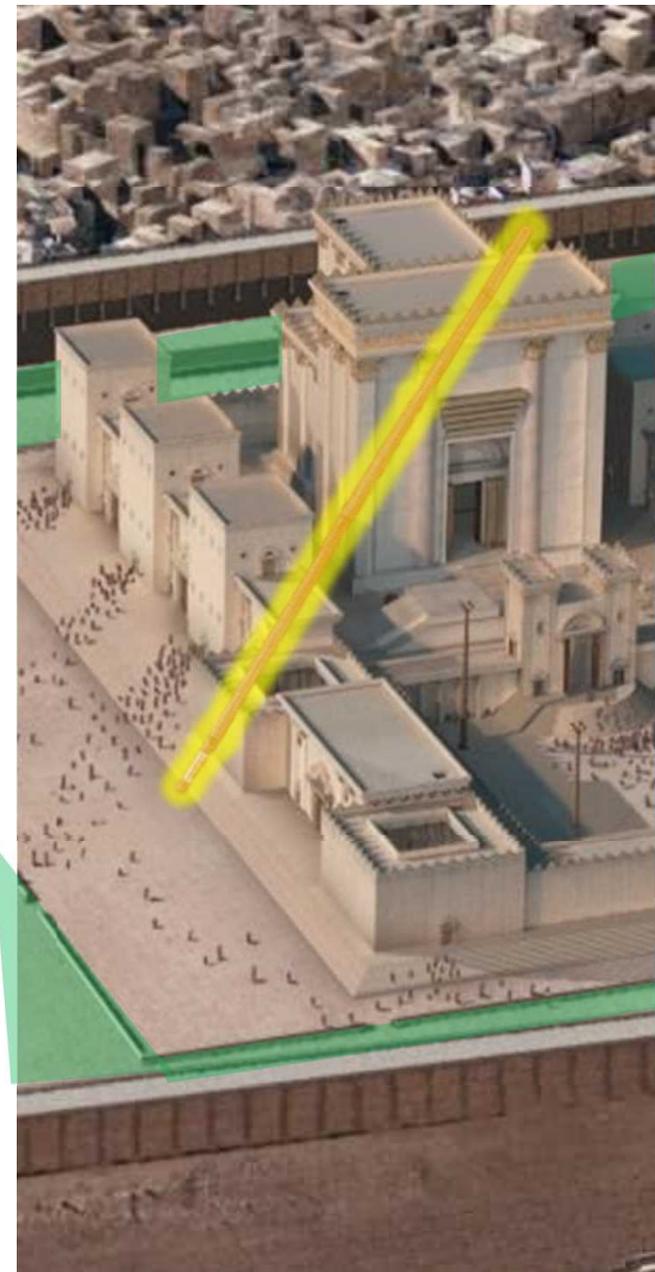
それから、杖のような測り竿*が私に与えられて、こう告げられた。「立って、神の神殿と祭壇と、そこで礼拝している人々を測りなさい。

神殿の外の庭*はそのままにしておきなさい。それを測ってはいけない。それは異邦人に与えられているからだ。彼らは聖なる都を四十二か月の間(後半3年半)、踏みにじることになる。わたしがそれを許すので、わたしの二人の証人は、粗布をまとって千二百六十日間(前半3年半)、預言する。」

* 測られるのは、裁きの度合い。

* 神殿の外の庭 ...異邦人の庭。

* 前半 ➡ 二人の証人が活躍 後半 ➡ 反キリストが蹂躞



【二人の証人】 黙11:4～5

彼らは、地を治める主の御前に立っている二本のオリーブの木、また二つの燭台*である。

もしだれかが彼らに害を加えようとするなら、彼らの口から火が出て、敵を焼き尽くす。もしだれかが彼らに害を加えようとするなら、必ずこのように殺される。

* ゼカリヤ4章での「2本のオリーブと一つの燭台」

➡ 神殿再建を担った指導者ヨシュアとゼルバベル。
二人の証人も、同様の働きを担う。

■ 二人の証人は、3年半、エルサレムで活動する。
御国の福音の真理を告げ、悔い改めを求める。

➡ 名は記されていない。証人の正体は不明!!

■ 誰も、二人の証人に害を加えることはできない。



【二人の証人】 黙11:6

この二人は、預言をしている期間、雨が降らないように天を閉じる権威を持っている。また、水を血に変える権威、さらに、思うままに何度でも、あらゆる災害で地を打つ権威を持っている。

■二人の証人を通してもたらされる、脅威のしるし。

➡歴代の預言者の集大成のような存在。

干ばつ(エリヤ)、水を血に変える(モーセ)、

あらゆる災害で地を打つ(預言者たち)

■しるしが示すのは、二人の証人が語るメシアこそ、間もなく来られる真実の裁き主であるということ。



【殺される二人の証人】 黙11:7～8

二人が証言を終えると、底知れぬ所から上って来る
獣*が、彼らと戦って勝ち、彼らを殺してしまう。

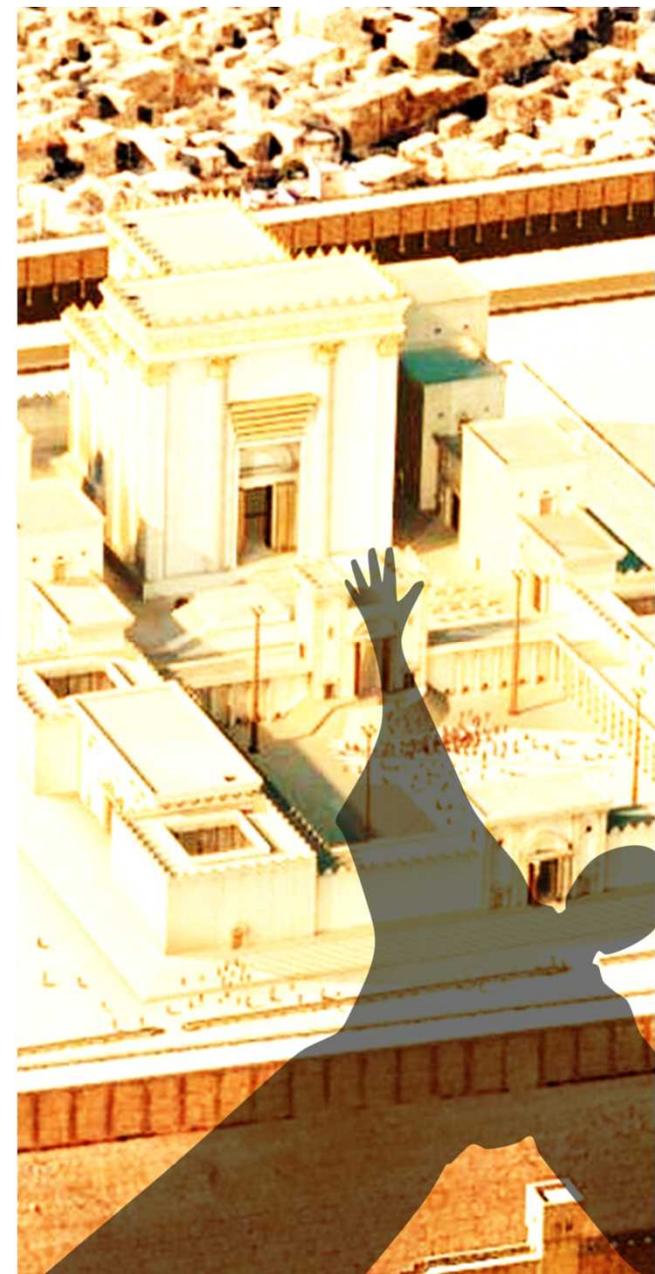
11:8 彼らの死体は大きな都の大通りにさらされる。
その都は、霊的な理解ではソドムやエジプト*と呼ばれ、
そこで彼らの主も十字架にかけられたのである。

* 底知れぬ所 ➡ アブソス。悪霊の幽閉の場。

反キリストもまた、一度死んで、復活する。

■ 使命を終えた証人は、反キリスト*に殺される。

* この時代のエルサレムの墮落の様子を示すもの



【証人の死を喜ぶ人々】 黙11:9～10

もろもろの民族、部族、言語、国民に属する人々が、*
三日半の間、彼らの死体を眺めていて、その死体を
墓に葬ることを許さない。

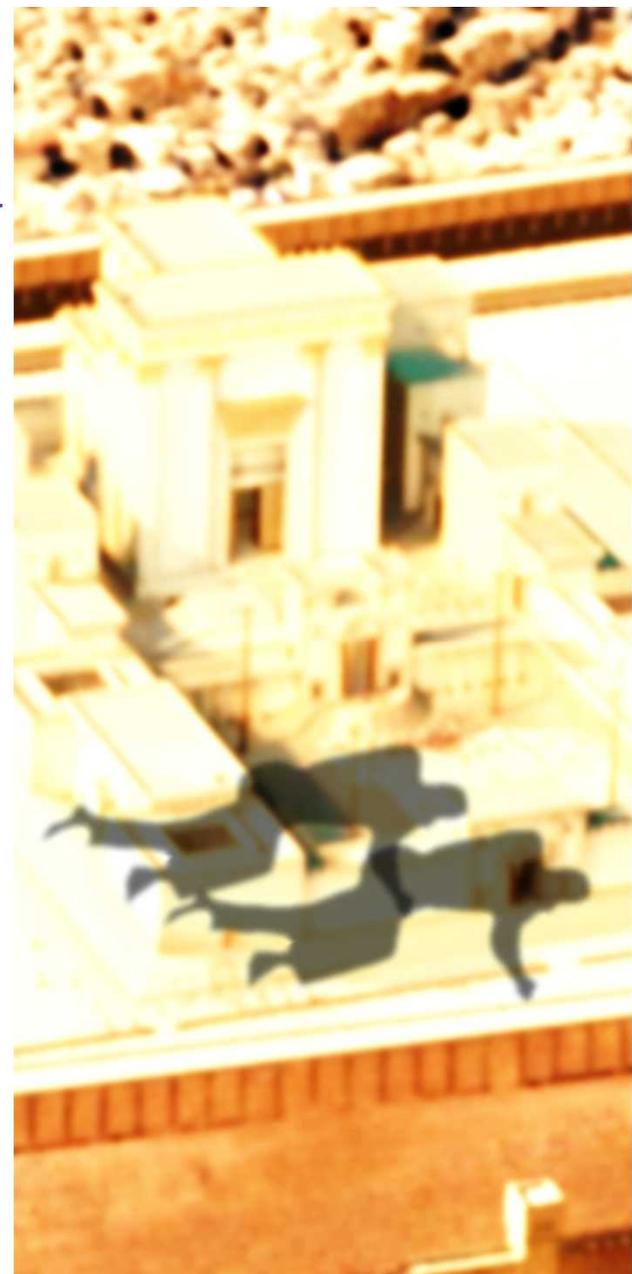
地に住む者たち*は、彼らのことで喜び祝って、互い
に贈り物を交わす。*この二人の預言者たちが、地に
住む者たちを苦しめたからである。

* 世界中の人々が、二人の証人の死体を見る。

* 携拳の後、地に残された人々。

➡ここでは、大患難時代の不信仰者たち。

* 不信仰者たちが喜ぶのは、これが最後。



【二人の証人の復活】 黙11:11～13

しかし、三日半の後、いのちの息が神から出て二人のうちに入り、彼らは自分たちの足で立った。見ていた者たちは大きな恐怖に襲われた。

二人は、天から大きな声が「ここに上れ」と言うのを聞いた。そして、彼らは雲に包まれて天に上った。彼らの敵たちはそれを見た。

そのとき、大きな地震が起こって、都の十分の一が倒れた。この地震のために七千人が死んだ。残った者たちは恐れを抱き、天の神に栄光を帰した。*

* 二人の証人の復活と、引き続いての大地震が、エルサレムのユダヤ人に、霊的覚醒をもたらす。



【第七のラッパ】 黙11:14～16

第二のわざわいが過ぎ去った。見よ、第三のわざわいがすぐに来る。第七の御使いがラッパを吹いた。

すると大きな声が天に起こって、こう言った。

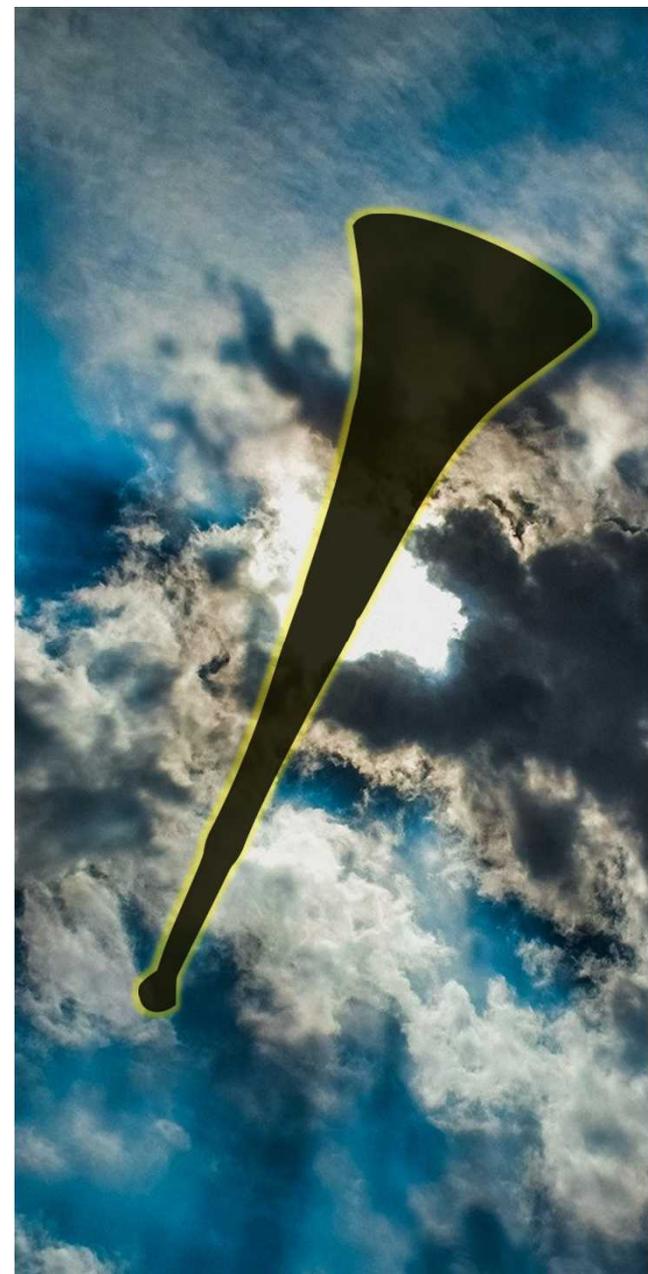
「この世の王国は、私たちの主と、そのキリストのものとなった。主は世々限りなく支配される。」

すると、神の御前で自分たちの座に着いていた二十四人の長老たちが、ひれ伏し、神を礼拝して言った。

■ 大患難時代の災いは、メシア再臨の前触れ。

■ 第七のラッパが吹き鳴らされ、最後の災いが!!

➡ 王の王なるメシアの再臨は、もう間もなく!!



【第七のラツパ】 黙11:17

「私たちはあなたに感謝します。今おられ、昔おられた全能者、神である主よ。あなたは偉大な力を働かせて、王となられました。

諸国の民は怒りました。しかし、あなたの御怒りが来ました。死者がさばかれる時、あなたのしもべである預言者たちと聖徒たち、御名を恐れる者たち、小さい者にも大きい者にも報いが与えられる時、地を滅ぼす者たちが滅ぼされる時です。」

それから、天にある神の神殿が開かれ、神の契約の箱が神殿の中に見えた。すると稲妻がひらめき、雷鳴がとどろき、地震が起こり、大粒の雹が降った。



最後の鉢の裁きは
16章から



Ⅳ. 大患難時代のイスラエル 黙示録12章

【一人の女のしるし】 黙12:1~2

また、大きなしるしが天に現れた。一人の女が太陽をまとい、月を足の下にし、頭に十二の星の冠をかぶっていた。* 女は身ごもっていて、子を産む痛みと苦しみのために、叫び声をあげていた。

* ヨセフの見た夢(創37章)が読み解くヒント

...太陽(ヤコブ)、月(ラケル)、11の星(11人の兄弟)

■ この「しるし」としての女は、**イスラエル**を示す。

➡ イスラエルは、「ヤハウエの妻」(イザヤ54:5~6他)

■ 身ごもっているのは、メシアの誕生を示すもの

➡ **メシア誕生に至るイスラエルの歴史が回顧される。**



【天での戦い・サタンの暗躍】 黙12:3~5

また、別のしるしが天に現れた。見よ、炎のように赤い大きな竜。それは、七つの頭と十本の角を持ち、その頭に七つの王冠をかぶっていた。

その尾は天の星の三分の一*を引き寄せて、それらを地に投げ落とした。また竜は、子を産もうとしている女の前に立ち、産んだら、その子を食べてしまおうとしていた。

女は男の子を産んだ。この子は、鉄の杖をもってすべての国々の民を牧することになっていた。その子は神のみもとに、その御座に引き上げられた。

- メシア誕生を巡る、天の軍勢と悪魔の戦い。
 - ➡ サタンが引き連れた墮天使*が、悪霊となった。
- メシアは誕生し、御業を成し遂げ、昇天された。

ここまでは過去の回顧



【荒野(山)に逃れるイスラエル】 黙12:6～9

女は荒野に逃れた。*そこには、千二百六十日の間、人々が彼女を養うようにと、神によって備えられた場所*があった。

後半の3年半、イスラエルはボツラ(ペトラ)へ逃れる

*ミカ書2:12「ヤコブよ。わたしは、あなたを必ずみな集め、イスラエルの残りの者を必ず呼び集める。わたしは彼らを、囲いの中(ボツラ)の羊のように、牧場の中の群れのように、一つに集める。こうして、人々のざわめきが起こる。」

*アモス 1:12「わたしはテマンに火を送る。その火はボツラの宮殿を焼き尽くす。」 ➡ボツラは町の名



【大患難時代・天における戦いの結果】 黙12:7~9

さて、天に戦いが起こって、ミカエルとその御使いたちは竜*と戦った。竜*とその使いたち*も戦ったが、勝つことができず、天にはもはや彼らのいる場所がなくなった。こうして、その大きな竜*、すなわち、古い蛇*、悪魔*とかサタン*とか呼ばれる者、全世界を惑わす者*が地に投げ落とされた。また、彼の使いたち*も彼とともに投げ落とされた。

天の戦いに負け、悪魔は地上へ落とされた

* 悪魔, サタン = 大きな竜, 古い蛇, 全世界を惑わす者

* 悪魔の使いたち → 悪霊

■ 悪魔も天への出入りを許されていた(ヨブ1,2章)



【地に落とされた悪魔・サタン 黙12:10~12】

私は、大きな声が天でこう言うのを聞いた。「今や、私たちの神の救いと力と王国と、神のキリストの権威が現れた。私たちの兄弟たちの告発者、昼も夜も私たちの神の御前で訴える者が、投げ落とされたからである。兄弟たちは、子羊の血と、自分たちの証しのことばのゆえに竜*に打ち勝った。彼らは死に至るまでも自分のいのちを惜しまなかった。それゆえ、天とそこに住む者たちよ、喜べ。しかし、地と海はわざわざいだ。悪魔*が自分の時が短いことを知って激しく憤り、おまえたちのところへ下ったからだ。」

地に落とされた悪魔は、三年半、地上で暴虐の限りを尽くす!!



【荒野に逃れるイスラエル】 黙12:13～15

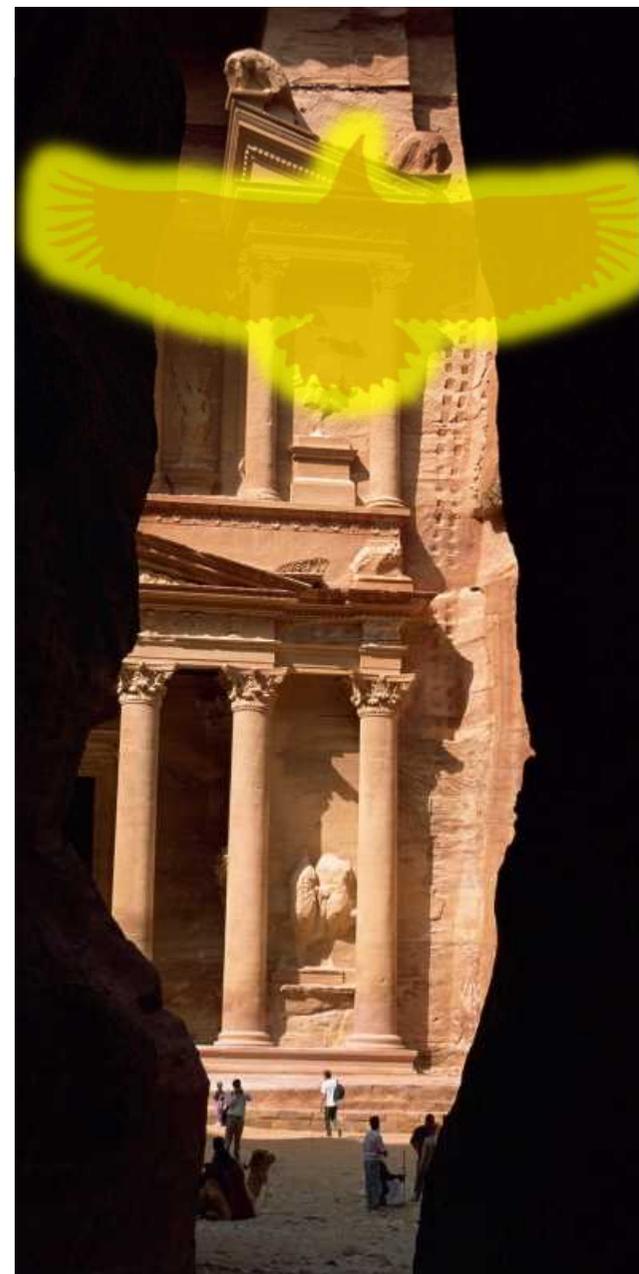
竜は、自分が地へ投げ落とされたのを知ると、男の子を産んだ女を追いかけた。しかし、女には大きな鷲の翼*が二つ与えられた。荒野にある自分の場所*に飛んで行って、そこで一時と二時と半時の間、蛇の前から逃れて養われるためであった。

すると蛇はその口から、女のうしろへ水を川のように吐き出し、彼女を大水で押し流そうとした。*

* 神の速やかな守りを示すもの

* ボツラ(ペトラ) ...ナバテヤ人の古代都市の遺跡。

* 「大水」は、象徴的に大軍勢を示す言葉。



【執拗なサタンの攻撃】 黙12:16～18

しかし、地は女を助け、その口を開けて、竜が口から吐き出した川を飲み干した。

すると竜は女に対して激しく怒り、女の子孫の残りの者*、すなわち、神の戒めを守り、イエスの証しを堅く保っている者たち*と戦おうとして出て行った。

そして、竜は海辺の砂*の上に立った。

* 神のイスラエル ...主イエスを信じたイスラエル

■ 大患難時代の後半の3年半。反キリストは、イスラエルを絶滅させるべく、苛烈な攻撃を重ねていく。

■ 信じた者の多くは、大迫害により殉教していく。

* 海は異邦人世界を示す。 ➡異邦人の軍を従える悪魔





Ⅲ. まとめと適用

今この恵みの時代にこそ、
主の恵みを味わい尽くそう

【今はまだ、恵みの時代、救いの時】

■ コロナ禍、猛威を増す自然災害、混迷していく世界。

➡ 世界は着実に、大患難時代へ近づいている。

■ しかし、まだ、終わりではない。

今は、恵みの時、救いの時。大患難を逃れるチャンスが与えられている。

■ この時代に、主がすべての人に求められるのは、一つのこと。

あなたが、死ぬか、携挙が起きる前に、福音を信じなさいということ。

【恵みの時代に、信仰者としての使命に生きよう】

- 携拳の時までは、使徒の時代から変わらぬ使命に信仰者は生かされる。
すなわち、福音を告げ、御言葉を解き明かしていくこと。
- 主イエス・キリストは、あなたの罪のために十字架にかけられ、死んで葬られ、死を打ち破って復活された。
天におされるイエスは、王の王、裁き主として帰ってこられる。
この福音を告げ、その確かさを聖書全体から解き明かして行こう。
- 主が、救われるべきすべての人を救うまで、世の終わりは来ない!!
混沌の中で、福音宣教のために保たれる、信者の平和と必要がある。
世の波に翻弄されることなく、岩なるメシアに立ち続けていこう。

「天のお父さま。わたしは、御子(みこ)イエス・キリストが、
①わたしの罪(つみ)を贖(あがな)うために十字架で死に、
②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、
③三日目に復活(ふっかつ)したことを信(しん)じます。
混沌としたこの時代にも、使命に生きる者のために、
主は、平和と必要を、かならず満たしてください。
平安の内に、それぞれの使命に遣わしてください。
主(しゅ)イエス・キリストの御名(みな)によって祈ります。

アーメン」